

# 講演会型『4校合同（1中学校+3小学校）』



学校名等	北方町立小中学校(北方中、北方小、北方西小、北方南小)4校合同
実施日時	平成30年10月30日(火)13時30分~14時30分
会場	北方町きらり多目的ホール
参加人数	83名
学習課題(分野)	ありのままのわが子を受け入れるために~性について学ぼう~(性教育)
運営者の願い	北方町では毎年この時期に合同講演会を行っている。産婦人科での経験をもとに話される内容がたいへん好評であり、この講師のお話を聞きたいという願いで、昨年度講演会を計画したが、台風の為できなかった。そこで今回行う事とした。

## 学習の内容

講師:大垣女子短期大学 看護学科 助教 戸村佳美氏

### ●性の知識がなさすぎる。

講師の専門は母性看護学、小中学生に性の話をするにはわけがある。ある女の子の話から子どもに必要なこと



- 1 性行為に関する正しい知識
- 2 親子の信頼関係
- 3 自分への自信



### ○データとして、

- ・異性の友達が多いが、彼氏のいる子は少ない。
- ・キス経験も少ない。性行為も少ない。
- ・人との関わりが苦手。コミュニケーションが取りにくい。

### ○男女の違い

#### ●女性のお腹は悪化しやすい。

- ・子宮粘膜は血流に直結、子宮一卵巣一お腹は繋がっている。
- ・性器をきれいにしておくこと。
- ・悪性疾患になりやすい。

等大事なことを教えたい。

- ・男性はシンプル、粘膜は尿道のみ

- ・男性は精子が1日約3億、一生能力がある。女性は卵子が月に一度、一生に約400個

○流産となる確率は非常に高く、知らない間になっていることもある。実態は数回に1回は流産しているというデータがある。無事に生まれるという事は奇跡と言える。

○会話が少なく、家庭がつまらないと感じている子は、性交経験が多いという調査結果

### ●子どもが生まれた時の話は大事

講師の出産された時の話の中でわが子が愛おしいといった話は、参加者の多くがうなずかれていた。大切な子、自分の命よりも大事な存在と感じた話は、是非わが子に話してほしい。

#### ○子どもの質問には正しく答える。

- ・「おちんちんの毛」大事な所に毛が生える。清潔にしましょう。
- ・「胸のふくらみ」母になるための準備 赤ちゃんの視力は超近眼
- ・「赤ちゃんはどうやってできるの？」父と母が一緒になってできる。愛が大事

○同じ子を産むのは海にコインを落として探すようなこと、子どもは特別な存在

#### ●〈感想:アンケートより〉

- ・先生が出産された時の話を聞いて、涙が出ました。私もそうだったかと、その時の気持ちを思い出しました。子どもに大切に思っている気持ちをどうしたら伝えられるのか色々考えていましたが、シンプルに伝えられそうです。我が子は大事な存在だと実感しました。
- ・3億分の1の命だと思つて何でもできるような気持ちになる。共に大きな心で見守ることができそうな気がした。いつも人と比べてあれができないこれもできないと思ってイライラすることが多かったのですが、あなたは特別な存在だと思えました。
- ・性についての知識がない子どもがこんなにいるのかとびっくりしました。まだまだ我が子には性に関する話は早いと思っていましたが、正しい知識を伝えていくことは親として大切だと思えました。

### ●講師の思いがよく伝わる会

- ・子どもが自分を大事にする子になってほしいという強い願いを持っている講師の話は、助産師の経験から、知識上の説得力以上に気持ちの部分が大きく、講師自身が感じたことを話されるので理解しやすい。
- ・家庭的に心がさみしい子は性交経験が多いというのは厳しい話で、もっと多くの人に知ってほしい事実だと感じる話でした。
- ・今回母親の立場での子どもへの語りが伝わっていますが、夫婦での関わりという点で父親もしっかり考えたい内容でした。



### わが子が生まれた時

これは、どの子にもお話してほしいと感じました。

講師が出産のときのお話を聞いて、涙ぐみ共感される母親が多く、子どもが自分は大事な存在であること、命が大事なことでであると伝わるのではないかと感じました。

